

行きます・聞きます・提案します

～商工会の支援事例～ ⑧

会員と共に歩む密着型支援

(有)森本金網製作所：中能登町商工会

商工会を積極的に活用

中能登町は古くから繊維産業が盛んな地です。(有)森本金網製作所は、昭和四十八年に現社長の森本陽介氏の父が織物の技術(細幅織物)を活かし金網織物業を個人創業、昭和六十年に法人化し現在に至っております。

同社長が平成十七年に事業を引き継いで以来、販路拡大及び技術向上に向けて意欲的に取り組んでおり、平成十九年には自動車部品などに使われる「ハイメッシュ」と呼ばれる密度(インチ×インチの面積に二百か

ら三百本のワイヤーが織り込まれる)の製織技術開発に成功しています。



自動車部品などに使用される当社の金網を用いた商品例

森本社長は以前から商工会を積極的に活用、その熱意に押されるかたちで、支援・提案を繰り返してきました。

補助金で技術力向上・売上増加が実現

当業界では川下業者の商品開発競争が年々激化しており、当社に対し、高密度金属糸商品の開発依頼が相次ぎ、その開発には、織機の導入が必要不可欠でした。そのため、国のものづくり補助金を活用し、織機の設置を検討。また、同業他社では、ほぼ実施していない商品納入前の精密検査を行うための検反機の導入に、「小規模事業者持続化補助金」を活用することを提案し、申請書の作成を支援しました。

寸暇を惜しんで活動する森本

社長の負担を最小限に軽減するため、事業計画の構成は、私が担当しました。事業内容を深く知ることができ、当方からも様々な提案を行うことで、両補助金とともに採択を得ることができました。結果として、技術力向上及び同業他社との差別化の実現がより売上増加につながりました。



補助金を活用して導入した高機能織機

専門家派遣制度を利用し作業現場の安全性を実現

当社への定期的な巡回実施により工場内の様子を見る機会が多く、素人目に見ても工場内の動線に危険を感じる状態であったため、品質管理の観点からも「整理整頓などの5S」に関する専門家の指導を受けることを提案し、県の「企業ドック制度」を活用しました。

専門家からは四十七項目にわたる改善事項の指摘をいただき、

改善に向けて一つひとつ取り組んだ結果、従業員の安全と作業の効率化が図られるとともに、原材料の保管状況の改善により品質向上が実現しました。



講師の指摘に対し対処する森本社長

会計ワークスで資金計画を把握

当業界の構造上、材料仕入から売上の資金化まで約六か月の期間がかかることから、迅速な資金計画の把握や安定的な資金調達の実施は大きな課題となっていました。

資金計画の把握については、商工会が提供する会計ソフト「会計ワークス」の活用を提案し、経理を担当する奥様に対し操作方法等をアドバイスしました。入力結果をもとに森本社長と財務状態についての確認を定期的に行っています。

資金調達については資金使途を確認の上、どのような調達方法が当社にとって優位であるか

をアドバイスしました。商工会の会員が利用できる日本政策金融公庫の「マル経融資」もすすめました。

担当経営指導員から一言

森本社長からの支援依頼は尽きることがありません。今後補助金の事業実施や近い将来に実施を目標む工場移転に向けた計画書作成等を支援する予定です。

「商工会を頼れば力になってくれる」と思っていただけの会員事業所の数は間違いなく増えていると感じます。その熱い思いに少しでも応えられるよう今後も事業者の立場に立ち、商工会のキャッチフレーズである「行きます・聞きます・提案します」の下、事業者に寄り添っていきます。

担当経営指導員・執筆

中能登町商工会

経営指導員 高田圭一朗

(有)森本金網製作所

〒九二九-一六三五

鹿島郡中能登町高島ウ一五四

TEL〇七六七-七七七一 四四八

高田指導員が行った(有)森本金網製作所様への支援は、平成二十八年石川県商工会優秀支援事例の優秀賞を受賞しました。